

■8月19日

中国東方航空、松山—上海線、減便を検討、搭乗率低迷

中国東方航空が10月27日からの冬季ダイヤで、松山—上海線を現在の週4便からの減便を検討していることが16日、分かった。昨年9月の沖縄県・尖閣諸島国有化以降、搭乗率は低迷。鳥インフルエンザの影響もあり、2013年4～7月は30%台で推移し、採算ラインとされる5～6割を割り込んでいる。

愛媛新聞によると、中国東方航空松山支店は「現状維持か、それ以外の選択肢を本社と折衝している」とコメントした。関係者によると、減便は週2便化を軸に調整中。昨年10月に定員120人から150人に拡大した機材も縮小の方向で検討しているという。

同路線は週2便で運航スタート。12年4月に3便化、10月からさらに1便増便し、4便となっていた。しかし、尖閣国有化の影響で11月の搭乗率は単月では過去2番目に低い26.0%に落ち込んだ。

(愛媛新聞)8/19

<http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130817/news20130817508.html> (-> <http://www.ehime-np.co.jp/news/local/20130817/news20130817508.html>)

沖縄への台湾人旅行者、5カ月連続続伸、中華航空、1-6月、搭乗実績前年同月比30%増

沖縄を訪れる外国客は3月から5カ月連続で過去最高を更新した。中でも全体の構成比で最も多い約5割を占める台湾人客数が2月から毎月大幅に伸びている。2013年1月～7月までの台湾人客数は前年同期比2.2倍の13万1700人に上る。増加の要因は円安の影響に加え、県や沖縄観光コンベンションビューロー(OCVB)の台湾での積極的な誘客活動の推進などがある。琉球新報が報じた。

那覇—台北を週18往復運航する台湾の中華航空は、同路線の1～6月までの搭乗実績が前年同期比30%増となった。子会社の華信航空が就航している石垣—台北線を含め、中華航空は現在日本関係路線を計14路線運航している。そのうち東京方面の伸び率が最も高く、これに次ぐのが沖縄路線だ。

那覇—台北の9月と10月の予約率は高い水準が続き、それぞれ平均80%を超える。

<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-211226-storytopic-4.html> (-> <http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-211226-storytopic-4.html>)

アメリカン航空・USエアウェイズ、米司法省による提訴に反論

アメリカン航空の親会社であるAMR コーポレーションとUSエアウェイズ・グループは、米司法省が両社の合併差し止めを求めて提訴したことを受け15日、合併新会社は消費者、地域社会、従業員にメリットがあるという声明を発表し、断固たる姿勢で臨むことを表明した。

—以下ニュースリリース 一部抜粋—

「我々は、今回の合併に関する司法省の評価は誤りであると考えています。補完的関係にあるアメリカン航空とUSエアウェイズの路線網を統合して乗客の利便性を高めることが、この合併の目的です。競争促進に寄与する今回の合併を妨げることは、路線網の拡充により選択の幅が広がるという消費者のメリットを損なうこととなります。」

「さらに、この合併はAMRの再建を進める上でも最善の結果をもたらすものです。アメリカン航空とUSエアウェイズの株主、債権者、従業員からの幅広い支持を得られているという事実は、今回の合併が両航空会社のみならず、両社の利用客や就航地の地域社会にとっても、最善策であることを裏付けるものです。」

「我々は、この合併をできるだけ早期に成し遂げ、新生アメリカン航空ならではの利便性をお客様と地域社会に提供できるよう、断固としてあらゆる法的手段に訴える所存です。」

新生アメリカン航空誕生によるメリット

競争力の強化

合併後の新会社は、56カ国、336カ所の目的地に向け、毎日6,700を超える便を運航する予定で、サービスの拡充と国

内線／国際線就航先都市の増加を通じて、米国全土で地域社会の活性化に貢献します。また、両社が現在所有しているすべてのハブを維持し、これらのハブ発着の便を拡充することにより、お客様の旅行の選択肢を拡大します。その結果、新生アメリカン航空は業界内に競争をもたらし、消費者にとって魅力的な航空会社となります。

従業員にとっての長期的な待遇改善

合併後は、従業員はさらに競争力の高い、強固な財務基盤を持つ企業に所属することによるメリットを享受でき、長期的に大きな就業の機会がもたらされます。また、従業員の報酬・待遇改善の実現を可能にします。

お客様にとっての選択肢の拡大、サービスの拡充、より快適な空の旅の実現

お客様にとっての利便性としては、フライト数の増加、選択肢の拡大、サービスの拡充、より快適な空の旅の実現等が挙げられます。両社の補完的な路線網が統合されることで、効率が向上するとともに、お客様にとっての選択の幅がさらに広がります。ワンワールド・アライアンス内での接続性が強化されることにより、米国内線および国際線におけるさらなる選択肢とメリットが提供されます。

アメリカン航空の再建という観点からも、この合併は最善の結果をもたらすものと言えます。この再建案は、株主および債権者の皆様からも、債権回収状況をめざましく改善するものとして圧倒的な支持をいただいています。

また既報の通り、AMRとUSエアウェイズ両社の取締役会は、世界有数のグローバルな航空会社を設立するための合併計画を承認しています。

(アメリカン航空 ニュースリリース)8/15

<https://www.americanairlines.jp/intl/jp/aboutUs/pr20130815.jsp> (->

<https://www.americanairlines.jp/intl/jp/aboutUs/pr20130815.jsp>)